

# No.12

## 埋設型枠における高流動コンクリートを用いた打込み方法の影響

水野 剣一<sup>1)</sup>, 谷口 修<sup>1)</sup>

### Influence of Placing Method Using High Fluidity Concrete in Buried Formworks

Kenichi Mizuno<sup>1)</sup> and Osamu Taniguchi<sup>1)</sup>

#### ■ 要旨

埋設型枠背面に隙間が生じる原因としては、締固め不足などによる豆板のような充填不良も考えられるが、ブリーディングや気泡などもあり、これらの影響や低減方法について把握することが重要である。本研究では、高流動コンクリートを用いて、打込み方法の違いによる充填性と一体性の違いを把握することを目的とした。その結果、水平に対して70°～90°の勾配面では表面気泡面積率や空隙率は打込み方法による大きな違いは見られなかったものの、上から打ち込んだ場合のみ、埋設型枠背面にブリーディングが原因と思われる面状の隙間の発生が確認された。

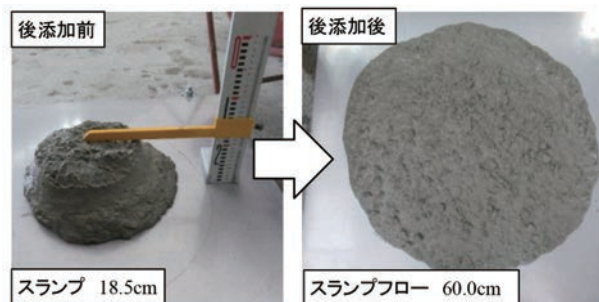


図-2 後添加前後のフレッシュ性状

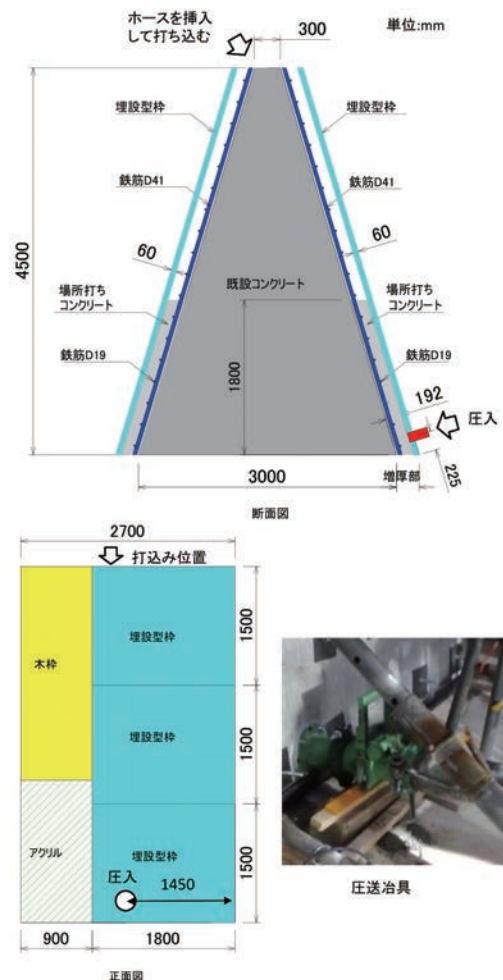


図-12 試験体概要図

1) 技術研究所 土木技術開発部

\* コンクリート工学年次論文集, Vol.42, No.1, 2020, 日本コンクリート工学会, pp.1150-1155 掲載